

## 銅板で手形のレリーフをつくろう！

### 「アートメタル・ワークショップ」



金属板を自由に操る「金属造形人」、宮村浩樹さん。ものづくり名人として内閣総理大臣賞に輝いた、大阪が誇るテクノマスターのひとりだ。職人のオーラただよう宮村さん。剣道2段、時代劇の役者さんのようでカッコいい～！

どうして「手形のレリーフ」なのですか、とお聞きすると「手の大きさが、成長すると変わっちゃうでしょ。今の手の大きさは、今しかない。このプログラムは小学校5・6年生が対象だから、きっと後でいい思い出になると思ってね」。職人さんとしての厳しさといっしょに、優しさが伝わってくる。宮村さんの作品は当然ながら金属でできているものばかりなのに、触ってみるとなぜかどれも温かい感じがする。宮村さんのお人柄のせいかもしれない。

黙々と作業に取り組む約30人の子どもたちは、みな真剣だ。ヘラのような道具を使い、自分の手の形に銅板を丹念に彫っていく。そういえば、こんなに一生懸命自分の手を見たことなかったな。体の中で、こんなに朝から晩まで休みなく働いているところって、ないのだけれど。みんな、自分の手に感心しているみたいだ。感謝しているのかも。宮村さん、そんなことも教えて下さっている気がする。

手の形に彫れたら、特別な薬品に漬けて、ていねいに磨く。すると手の形の凹凸がくっきりと浮かび上がって、「作品」と言う感じがしてくる。静かな作業場がだんだんにぎやかになってきた。お互いの作品を見せ合い、記念写真を撮っている。子どもたちの笑顔の真ん中にある宮村さんは、できあがった作品を優しい目で見ながら、一人ひとりの作品にサインをしてあげている。参加した子どもたちの手は、これから、どんな夢をつかむのかな。